

災害に強い森林づくりの取組について

岡谷では、3日間で総雨量363mm(年間降水量の3分の1)の未曾有の豪雨

最大の被害 小田井沢川の土石流災害



岡谷市では12渓流で土石流が発生。中でも小田井沢川では7名の方が亡くなる最大の被害となった。

岡谷市 小田井沢川 死者7名

崩壊は尾根に近い谷頭部の森林内で発生した。立木を巻き込んで土石流となり、大量の土砂と流木が集落に押し出した。



間伐されず荒廃した森林が被害を招いた



岡谷市 本沢川

間伐されていない森林で災害が発生



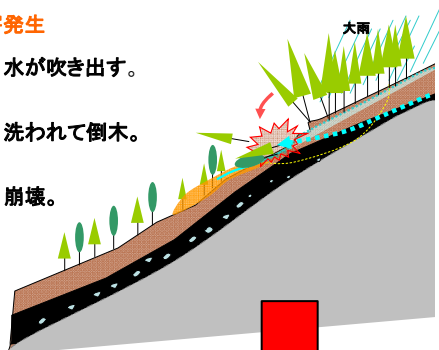
岡谷市 小田井沢川

沢沿いの脆弱な森林は流木となり災害を助長

災害発生メカニズム

災害発生

- ① 水が吹き出す。
- ② 洗われて倒木。
- ③ 崩壊。

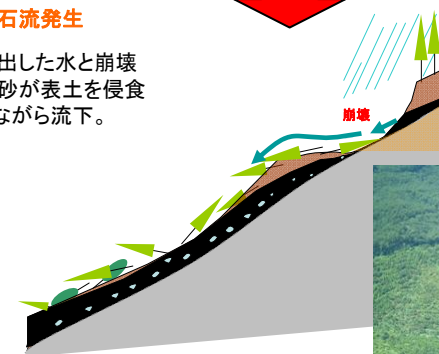


手入れされていない森林では、根を張らずに高く重くなった立木の倒伏が、災害の引き金となった。

このことは、減災のためには“森林の質の向上”が不可欠であり、緊急な対応が必要であることを示している。

土石流発生

噴出した水と崩壊土砂が表土を侵食しながら流下。



岡谷市 本沢川上流

整備された森林は災害を防いだ



諏訪市 湖南

間伐が行き届いた森林は災害を防止した



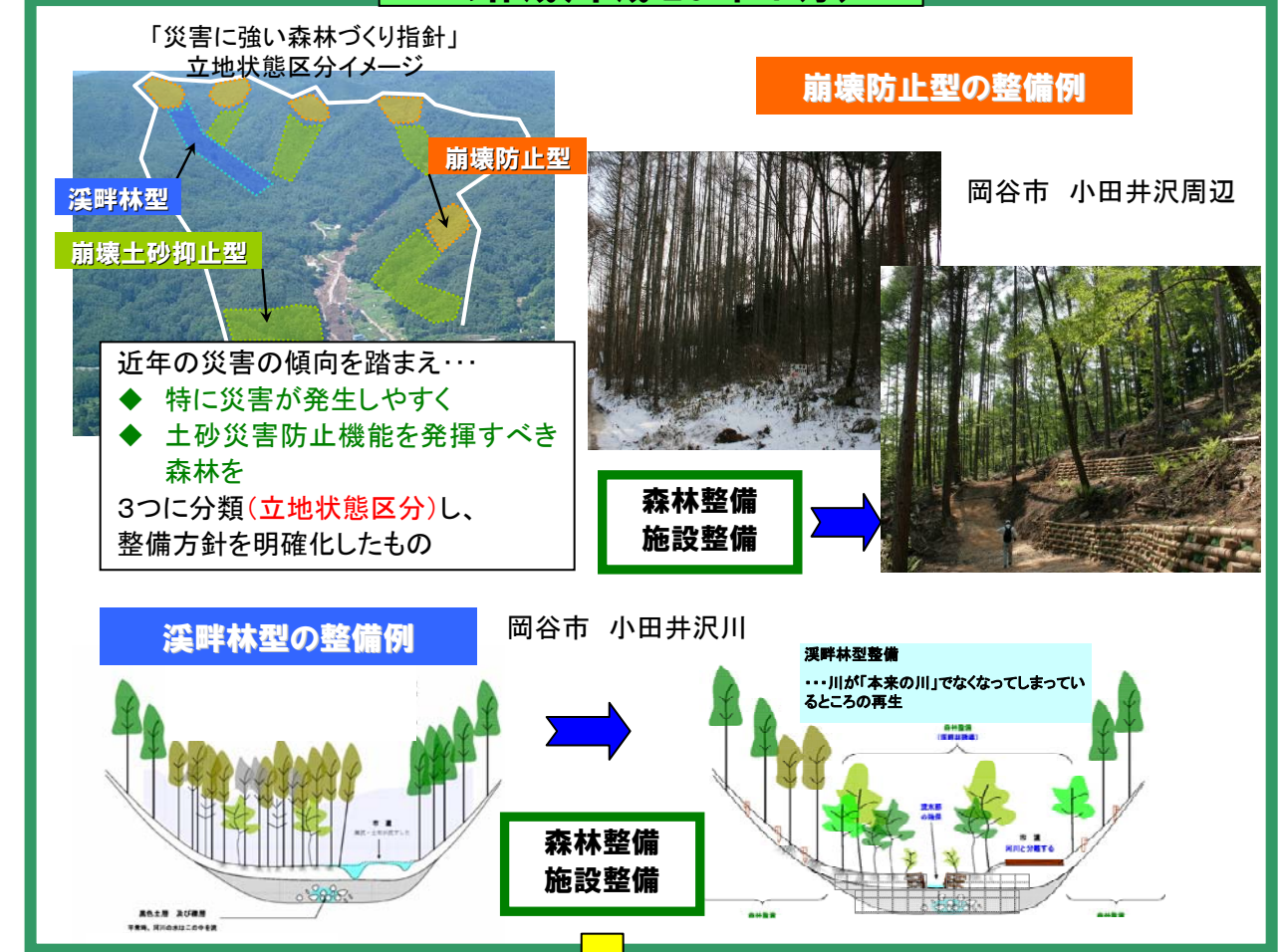
岡谷市 原沢川

上流域の治山施設は、土石流への発達を未然に防止した

平成18年7月豪雨災害の経験

『森林の土砂災害防止機能に関する検討委員会』H18年10月～H20年1月
委員長 北原 曜 (信州大学農学部教授)

【災害に強い森林づくり指針】の作成(平成20年1月)



治山事業計画の基本方針

- 崩壊を発生させない
- 土石流に発達する前に抑止する
- 流木を発生させない

森林整備

施設整備

一体的計画

- 住民の新たな防災意識の高揚
- 地域ぐるみの森林管理の機運の醸成
- 工事コストの削減・環境への配慮

災害予防的な補完(森林・施設)

【ソフト対策】 ・県による「災害に強い森林づくり」の住民説明会の開催
・地域自治が主体となった減災・森づくりの取組への支援

治山事業の目的・役割分担の明確化

地域自治との連携強化

砂防事業等との連携強化

造林事業との連携強化